１．基礎調査団の派遣

１－１　調査団派遣の経緯と目的

（１）調査実施の背景

象牙海岸共和国（以下、象国）は、1960年にフランスより独立したのち「象牙の奇跡」と呼ばれる経済成長を遂げた。その後、1980年代に入ると多額な対外債務に世界不況や天候不順という悪条件が重なったために経済は苦境に立たされた。現在は、1990年代以降こうした状況を打開するために行われた経済再建プログラムの成果が出てきたため、経済情勢は復調傾向にある。なお、「世界子供白書1998」によると、1995年の１人当たりＧＮＰは660US$である。

保健医療の指標としては、妊産婦死亡率、乳児死亡率、５歳未満児死亡率はそれぞれ810（対出生10万)、87（対出生1000)、128（対出生1000）であり（いずれもＵＮＩＣＥＦ1998)、依然として死亡率は高い。保健省（ＭＳＰ）では、基礎的保健サービスの普及や保健行政の地方分権化を推進し、より広範な国民に裨益すべく一次レベルサービスの強化を図るとともに、ワクチン接種の促進や農村部の保健委員会への女性の参加を通じた女性を対象とする衛生改善活動の実践等の予防サービスの強化を計画している。

このような背景のもと、同国の保健水準の向上に寄与できる技術協力案件の形成可能性について検討することを目的に、本調査団が派遣された。

（２）調査実施の目的

本調査は、象国保健省のプロジェクト実施に対する主体性を確認し、現状を十分把握したうえでプロジェクト方式技術協力（以下、プロ技）実施の可能性を想定しつつ幅広く関連情報の収集を行うこととする。

具体的な調査の方針としては、以下のとおりである。

①保健医療行政の現状と方針を把握する

②中央および地方の実施機関を調査を通じて基礎データを収集し、今後の計画の立案に活用する

③想定されるプロジェクト実施機関の技術協力の仕組みに対する説明を行い、先方の理解を確認する

④国家計画との整合性、他のドナーとの役割について検討する

１－２　調査団の構成

	担　当	氏　名	所　　属
団長	総　　括	清水　利恭	国立国際医療センター国際医療協力局
団員	地域看護	清水　真由美	国立国際医療センター国際医療協力局
団員	保健医療	渡慶次　重美	(株）大和総研社会開発情報本部
団員	技術協力計画	瀧澤　郁雄	国際協力事業団医療協力部医療協力第二課
団員	通　　訳	松原　雅男	(財）日本国際協力センター研修監理部

１－３　調査日程

日順	月日	曜日	移動および業務
1	12月６日	日	移動　成田発（JL405)→パリ着
2	12月７日	月	移動　パリ発（AF705)→アビジャン着
3	12月８日	火	午前　ＪＩＣＡ事務所打合せ、日本大使館表敬 午後　国立公衆衛生院（ＩＮＳＰ）協議
4	12月９日	水	午前　国立医療従事者養成学校（ＩＮＦＡＳ）視察 午後　保健省官房表敬・日程調整
5	12月10日	木	午前　国立衛生院（ＩＮＨＰ）視察 午後　保健省地域保健局協議
6	12月11日	金	午前　ＩＮＳＰ視察 午後　中川、大河専門家との会談、保健医療分野の青年海外協力隊員との意見交換および夕食会
7	12月12日	土	午前　シケンシ市保健センター（ＣＳＵ)、助産院（MU)、診療所（ＣＶＣ)、N'ZIANOUAN診療所、TIASSALE村視察 午後　ＩＮＳＰ院長主催夕食会
8	12月13日	日	資料整理
9	12月14日	月	午前　世界銀行（以下、世銀）との協議 午後　ＵＮＩＣＥＦとの協議、ＰＤＳＳＩに関する保健省とドナーの協議への参加、保健省人材局職歴管理課、人材養成・研修課および人材計画・管理課との協議
10	12月15日	火	午前　ＥＵ、ＩＮＦＡＳ、WHOとの協議 午後　ヤムスクロへ出発
11	12月16日	水	午前　ヤムスクロ／ボアフレ現地調査、ダコウ診療所視察・地域住民との話し合い 午後　ベルギー大使館開発協力担当との協議
12	12月17日	木	午前　調査団協議 午後　官団員大使館報告、統計局視察、官団員ＪＩＣＡ事務所報告 移動　AF703便にて官団員帰国

日順	月日	曜日	移動および業務
13	12月18日	金	午前　保健省、保健施設・職業局伝統医療課と協議、ベルギー大使館開発協力担当へ資料受取り、国立公衆衛生検査センター（ＬＮＳＰ）視察 午後　家庭・女性地位向上省と協議
14	12月19日	土	資料整理
15	12月20日	日	資料整理
16	12月21日	月	午前　保健省保健情報・管理・評価局 午後　ＬＮＳＰ視察、家庭・女性地位向上省へ資料受取り
17	12月22日	火	午前　ＧＴＺ、保健省計画・保健プログラミング局保健地図課と協議 保健省保健情報・管理・評価局 午後　象国家族計画協会（ＡＩＢＥＦ）視察、疾病互助保険促進計画委員会と協議、保健省、公衆衛生薬局（ＰＳＰ）視察
18	12月23日	水	午前　保健省保健施設・職業局保健施設管理課、官房と協議 午後　会計報告
19	12月24日	木	午前　ＡＩＢＥＦへ資料受取り 午後　ＪＩＣＡ事務所報告
20	12月25日	金	（祝日）資料整理
21	12月26日	土	移動　AF703便にてコンサルタント・通訳団員帰国（12／28日本到着）

１－４　主要面談者

（１）象国側

１）保健省（ＭＳＰ）

PROF. LASSINO OUATTARA	第一技術顧問
DR. KONE MAMADOU	技術顧問
MR. CHRISTOPHE ASSI	ＩＥＣ事務局ＩＥＣ課長
MR. AKA ANTOINE	計画・保健プログラミング局保健地図課長
MR. KAZA LEON	人材局長
MS. KACOU ANASTASIE	人材局職歴管理課
PROF. AGNEROH-EBOI Y	人材局人材養成・研修課
DR. SOMA CAMILLE	人材局人材計画・管理課
DR. NGBICHI JEAN-MARIE	地域保健局疫学サーベイランス課長
DR. YAPI	保健施設・職業局保健施設管理課長
DR. MAMADOU CAMARA	保健施設・職業局伝統医療課長
DR. LOUISE DJOUSSOU	保健情報・管理・評価局保健情報・資料課長
MR. SERY THEODORE	保健情報・管理・評価局統計士

MR. SERY JEAN-PIERRE　疾病互助保険促進計画担当

２）国立統計院（ＩＮＳ）

MR. KONAON VENANCZ　広報担当

３）国立公衆衛生院（ＩＮＳＰ）

DR. DIARA NARA SHOLE J.　院長

PROF. KOFFI KOUAME　副院長・生医学・衛生研究および教育部長

DR. KOFFI NARCEL　疫学・統計課長

DR. ADOU AGBO DIERRE　栄養検査課長

DR. LATTIER ANTOUE　栄養・糖尿病課

DR. LATTIEN ANIDINE　栄養・糖尿病課

DR. LATTIER ANTOINE　栄養・糖尿病課

MR. SANGARE AMINCERO NOEIB　微生物検査課長

MR. KABUN NIAHGOON　薬剤課

DR. ASSOA GATHEUIRE　口腔課長

MR. MAHIBI GWESSA　ＩＥＣ課

MR. IBA FRNSOISE　保健婦（士）課

DR. TE BONLE DIAWAR JANGUADI　小児精神科課長

DR. KONAN WAIDHED DANIEZ　生物課

DR. NAIAYE DIAKKO HARAN　母子保健課長

DR. ESSAN ADJEN JUSTIN　泌尿・性病課長

DR. DOUANAE HANADOU　精神衛生課長

４）国立衛生院（ＩＮＨＰ）

DR. TAGLIANTE SARACINO JANIRE　院長

DR. OVATTARA SIGUIFOTA　予防接種学部長

DR. NDOUTABA MODJIROM　臨床課長補佐および予防接種センター課長

DR. KONE ATTIOUMNUNAN　抗ベクター対策課長

５）国立医療従事者養成学校（ＩＮＦＡＳ）

PROF. DELAFOSSE ROGER　院長

MR. EHOULAN VAUGAH GABRIEL　院長顧問

MR. YAO BROU　技術者養成課長

MR. MAURY KONE　研修担当課長

MR. ALLA PATRICE　運営財務管理部長

６）国立公衆衛生検査センター（ＬＮＳＰ）

DR. COULIBALY MAMADOU	院長
DR. TAKO	ラボラトリー研究課

７）家庭・女性地位向上省

MS. DJENEBA KONE	家族行動局家族保護・促進課女性教育担当

８）ＥＵ

DR. BERNARD LABORDERIE	保健コンサルタント

９）ＷＨＯ

DR. MUSINDE SANGWA TONY	西アフリカ担当

10）ＵＮＩＣＥＦ

DR. GEPHE HINGST	保健・栄養プログラム担当

11）ベルギー大使館

MR. JEAN-PIERRE HUBERT	開発協力担当

12）ＧＴＺ

DR. SWENNEN PHILIPPE	保健省顧問・公衆衛生・家族計画担当

13）象国家族計画協会（ＡＩＢＥＦ）

MS. ADE MARIE CLAIRE	取締役
DR. AKA DIMY	副取締役
DR. HENRI ESSAM AMANY	執行部長
MR. ABBAS SANOUSSI	顧問
MR. KOUAKOU K. LUCIEN	計画部長
MR. DAHILY JEAN PAUL	経済・法律担当
MS. APPIA SLINE	経済顧問
MR. KONE IDRISSE	役務提供部長

14）TIASSALE（ティアサレ）県シケンシ市保健センター（病院）

MR. M.MOU KIPOURE	看護士
MS. KONE CATRINE	助産婦

15）ティアサレ市N'ZIANOUAN診療所

MR. KONE FANBA	看護士

16）BOUAFLE（ボアフレ）県医務局

DR. KOFF GBOAHUILI	局長
DR. DAGNOGO LEVOLOTCHIN	病院長
DR. GABO DAULIN	ボアフレ県保健センター

MS. CAULIBABY RAUAW　　ボアフレ県保健センターの助産婦
MR. VELIN OUA　　ボアフレ県保健センターの事務職

17) DACOHOU診療所

MR. YEO GONAN　　看護士
MR. KOUADER EUJER　　DACOHOU村の村長
MR. LOUP KRICHUS　　村落保健委員長
MR. KUWONE RAYMON　　村落保健委員

（２）日本側

１）在象国日本大使館

中村　實宏　　特命全権大使
坪田　俊郎　　一等書記官

２）ＪＩＣＡ象国事務所

阿部　憲子　　所長
青木　利道　　次長
笹館　浩一　　所員
松永　亜紀　　所員
野崎　孝弘　　調整員
後藤　雅哉　　調整員

３）ＪＩＣＡ専門家（保健医療分野）

中川　直人　　家族計画・ＩＥＣ、保健省ＩＮＳＰ
大河　幸弘　　医療機器保守管理、ココディ大学病院センター

４）青年海外協力隊（ＪＯＣＶ）

渡辺　真美（助産婦）　　DIVO（ディボ）県医務局ギィトニ助産院
山口　成美（保健婦）　　ディボ県医務局ジキソ診療所
久保田　真由美（歯科衛生士）　　ディボ県医務局ギトウリ病院
平野　美穂子（栄養士）　　ディボ県医務局イーレ診療所
濱中　リコ（看護婦）　　ディボ県医務局イーレ診療所・助産院
今安　洋子（助産婦）　　ティアサレ県医務局ゴモン助産院
古川　佳恵（看護婦）　　ティアサレ県医務局N'ZIANOUAN診療所
小林　みどり（看護婦）　　ティアサレ県医務局シケンシ病院
椿　みち子（看護婦）　　ティアサレ県医務局シケンシ病院
軍司　美香（臨床検査技師）　　ティアサレ県医務局検査室
小平　澄枝（助産婦）　　フレスコ市アレスコ病院

１－５　象国の一般概要

象国は、アフリカ大陸の西部高地の南端に位置し、西をリベリアとギニア、北をマリとブルキナ・ファソ、東をガーナ、南を大西洋に接している。国土の大半は熱帯雨林が広がり、北部はサバンナになっている。

この国の名前は、象牙を求めて15世紀に最初にやってきたフランス商人がつけたものである。以後19世紀の終わりまで奴隷貿易の中心地となり、アフリカ大陸の征服と植民地化を狙ったヨーロッパ勢力間の争いのなかで、コートジボアールの名でフランスに併合された。

1960年に独立を果たしたが、ほかの多くのアフリカ諸国のように、新しい国家としてアイデンティティを確立するために国名を変えることはしなかった。

独立以後、フランス政府とは密接な協力関係を築いてきた。さらに、ほかのアフリカ諸国とは非常に異なる政策をとり、経済的には関税等に関する特権を与え西側諸国の投資を募り、外交ではアメリカ、イスラエル、南アフリカとも友好関係を築いた。

独立後最初の20年は、関税等の優遇措置による外国資金の多量流入を招き、象国は大きく発展した。この間に、アフリカで最も経済的に優位な国のひとつとなった。政府、産業および商業に携わるフランス人の数は４倍に膨れあがり、この発展によってブルキナ・ファソなどからの多くの移民労働者を引きつけた。

この経済力をもってしても、世界の商品価格が大きく下落した1980年代には、国を保護することができなかった。繁栄の終結とともに多くの外国人が帰国し、同国は外国銀行に多額の負債を負うようになった。

他のアフリカ諸国に比し、政治的にはかなり安定しているが、同国は深刻な国内問題に直面している。そのひとつが都市アビジャンの人口集中（独立時に18万だった人口が約180万に増えている）である。貧しい者たちは混み合った環境で暮らし、その多くが粗末な高層アパートを住まいとしている。経済が発展していた時代には保健および教育サービスに財政資源が割かれたが、大半の国民の生活向上にはあまり影響をもたらすまでに至らなかった。

データ・ファイル

＜国　土＞

正式名称　：象牙海岸共和国（別称アイボリー・コースト共和国）

首都　：ヤムスクロ（政治上)、経済上の首都はアビジャン

国土面積　：32万2600km²

地勢　：細長い沿岸平野、内陸部に進むにつれて熱帯雨林からサバンナへと変化する。西部および中央部は高地である。

気候　：熱帯に属し、雨期は５～７月および10～11月（沿岸部)、３～５月および７～11月（中央部)、６～10月（北部）

降水量　：平均900mm（北部)～2300mm（南部）

主要河川　：コモエ、バンダマ、ササンドラ

最高地　：ニンバ山（1753m）

＜政　治＞

政体　：共和制

国家元首　：大統領

政府代表　：大統領（内閣は大統領による任命制）

政党　：40近く存在。主要政党はコートジボアール政党、共和連合、イボアール人民党など

行政区画　：11地方46県

議会　：１院制、直接選挙。定数175名、任期５年

司法　：最高裁判所、高等裁判所、控訴裁判所、巡回裁判所、第一審裁判所、国家保安裁判所

軍隊　：総数ほぼ7100人、準軍事的軍隊（６カ月の兵役義務）

＜国　民＞

人口　：1430万人（1997年）

民族　：約60の部族が存在。４～５のグループに大別される。

言語　：フランス語（公用語)、その他ジュラ語、バウレ語

宗教　：イスラム教（38.7%)、キリスト教（27.5%、主にカトリック)、アフリカの伝統宗教（33.8%)（1988年）

＜経　済＞

通貨　　：ＣＦＡフラン

国民総生産　　：660US$（1995年）

年間インフレ率：４％（1985～1995年）

主要輸入品　　：機械、車両、鉱油、金属製品、鉄鋼

主要輸出品　　：カカオ、コーヒー、石油製品、木材

＜労　働＞

産業別人口　　：農林水産業・鉱業（68.2％）、製造・建設業（8.2％）、金融・サービス業（23.6％）（1992年）

失業率　　：6.7％（1992年）

＜教　育＞

識字率　　：都市（68％）農村（30％）、男性（51.1％）女性（32.4％）（1993～1994年）

就学率　　：66.7％（1993～1994年）（初等教育）

（出典：・世界再発見６：中部・南部アフリカ、同朋舎出版、1992年
・世界子供白書、ＵＮＩＣＥＦ、1998年）

１－６　象国および近隣諸国の各種社会開発指標

		対象年	単位	象牙海岸国	ｶﾞｰﾅ	ﾏﾘ	出典
人口指標	人口	1997	千人	14300	18338	11480	1
	粗出生率	1996	／人口千	38	39	48	2
	粗死亡率	1996	／人口千	14	11	18	2
	年平均人口増加率	1980-1996	%	3.4	3.1	3.0	2
	平均寿命	1997	歳	51	58	48	1
	都市人口増加率	1980-1996	%	4.8	4.1	5.5	2
社会経済指標	一人当たり GNP	1995	US $	660	390	250	2
	年間インフレ率	1985-1995	%	4	1.4	0.8	2
	成人識字率　男	1995	%	50	76	39	2
	女	1995	%	30	54	23	2
	安全な飲料水を　都市	1990-1996	%	56	88	87	2
	入手できる人の比率　農村	1990-1996	%	32	52	55	2
	適切な衛生施設を　都市	1990-1996	%	71	62	12	2
	持つ人の比率　農村	1990-1996	%	17	44	3	2
子供の健康指標	乳児死亡率	1997	／出生千	87	74	150	1
	５歳未満児死亡率	1997	／出生千	128	107	178	1
	低出生体重児出生率	1990-1994	%	14	7	17	2
	予防接種率　BCG	1996	%	68	65	76	1
	３種混合	1996	%	55	51	52	1
	ﾎﾟﾘｵ	1996	%	55	52	52	1
	麻疹	1996	%	65	53	55	1
	甲状腺腫罹患率（6-11 歳）	1985-1994	%	6	10	29	2
女性の健康指標	妊産婦死亡率	1990	／出生 10 万	810	740	1200	2
	合計特殊死亡率	1997	%	5.1	5.3	6.6	1
	妊産婦への破傷風の予防接種率	1996	%	22	14	19	1
	保健員の介助付き出産の比率	1990-1996	%	45	44	24	2

出典：1. The World Health Report WHO, 1998

2. 世界子供白書　ＵＮＩＣＥＦ、1998